

領域開拓プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

- ◆課題: 行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開
- ◆研究テーマ: 社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明

研究期間: H26.10~H32.9
委託費総額: 22,600千円

<研究代表者>

石井 敬子: 神戸大学大学院人文学研究科 / 准教授



<専門分野>

社会心理学・文化心理学

<Webページ>

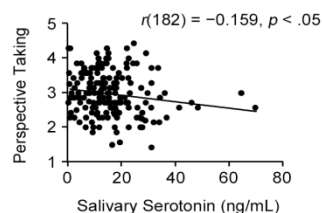
<http://www2.kobe-u.ac.jp/~ishiik/>

<研究目的・概要>

社会心理学実験の手法、遺伝子解析や内分泌学といった自然科学の手法を援用し、遺伝子と社会・文化環境要因との相互作用について検討

これまでの成果(H26.10~H29.9)

- ・遺伝子と文化との相互作用: 限定的
→ 個体発生レベルでの適応の可能性
- ・環境要因(e.g., 幼少期の家庭環境)による効果: 先行研究を概念的に追試
- ・セロトニン2A受容体多型や唾液セロトニンと行動傾向の関連性



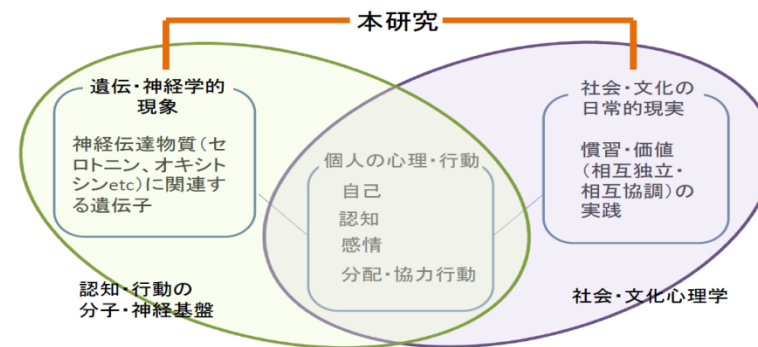
唾液中セロトニン濃度が高い個人ほど、共感性(視点取得)の程度が低い (Matsunaga et al., 2017, PLoS ONE)

今後の研究概要(H29.10~H32.9)

- ・行動バッテリーテストと遺伝子多型の網羅的解析: 精神的健康(幸福感や共感等)の関連項目を加えた上での追加のデータ収集、幼少期の家庭環境の効果に関する比較文化的検討
- ・アジア系移民を対象としたテスト: 個体発生レベルでの適応仮説の妥当性を検討
- ・セロトニンと行動傾向(共感や幸福感の伝播等)との因果関係を探索: トリプトファンサプリの利用

<研究計画の特徴>

- ・高い学際性・文理融合: 文化を自然科学的な方法により理解
- ・扱う対象の多層性: 遺伝子と文化の相互作用という上位目標に向けた、異なる領域の研究者による協働



<目標とする研究成果>

文理融合的な試みで、社会・文化と人間との関わりについての統合的な理解に寄与することを目指す

- ・遺伝子と社会・文化環境との相互作用研究の問題点(小さいサンプルサイズ、単一の遺伝子による影響を仮定、複数の遺伝子による交互作用を軽視等)を解決→再現可能性の議論に大きな影響を与えることが期待
- ・心理・行動傾向の内面化に、神経伝達物質や遺伝子、社会・文化環境がどのように影響を与えるのかを検討

<将来展望>

- ・二次解析可能なデータベースの作成と公開: 知見を広く還元
- ・心理・行動傾向の統合的な理解をもとに、良い(善い)生き方を得ることを目指した効果的な介入のための基礎的提言